

## 5. 消費者市民社会の構築（持続可能な消費の実践）

### ～消費者市民社会ってなに？～

#### 指導上の留意点

商品・サービスの価格にはさまざまな価値が反映されており、商品選択は自分自身がどのような基準を優先させるかによって決まる。商品の購入という身近な消費行動を通じ、自分にできる消費者市民としての行動は何かを考え、公正で持続可能な社会の構築に向け、社会・将来によりよい影響を与える行動を実践できる考え方を身に付けさせる。

#### 各問についてのポイントと解答例

- 1 (1) 商品・サービスを販売するためには人件費や運送費など目に見えない経費が含まれている。商品として市場に出すためにはどのような経費が必要なのかを考え、価格設定には理由があることを理解させる。

解答例 ワークに記載しているもののほか、紙皿、ゴミ袋、ポスター用画用紙、光熱費 など

- (2) a. 文化祭の模擬店に使用する材料の仕入れを想定し、売り手の視点で商品の選択基準を考えさせる。

購入する店	選ぶ理由
解答例 スーパーマーケット、 ディスカウントストア、 100円ショップ、 インターネット上のショップ など	安いほうがよいから、適正価格か否か、高いほうが安心・効果があるから など
	安心して使いたいから、健康にいいと思うから、友だちが安全と言っていたから など
	国産は安心できるから、被災地を支援したいから、その産地のものは質がよいから など
	新商品だから、デザインがよいから など
	そのメーカー・ブランドが好きだから、品質の信頼性、ステイタス など
	他国の手助けがしたいから、児童労働を解消したいから、南北問題に関心があるから など

b. 教材①-1の<sup>参考</sup>を見て、商品選択の基準が価格だけでなく生産地や生産方法などさまざまであることに気づき、それが自分にとってどのような意味をもつかを考えさせる。また選択基準は一つではなく、状況や人によって複合的に検討されることを認識させるとともに「買う・買わない」の選択は企業への「経済的な投票行動」であって、よりよい企業の商品を積極的に購入することで、企業の社会的責任を促進することにつながることを理解させる。

解答例 上の表「選ぶ理由」参照

- 2 教材①-2の<sup>参考</sup>を見て、社会や周囲、将来の人々に影響を与えるといった倫理的（エシカル）な視点をもった商品選択が、公正で持続可能な社会の構築につながることを認識させる。

解答例 商品の生産に携わる人々の暮らしに思いをはせることができる想像力が必要  
 値段だけでなく、その商品の原材料や生産地、企業の考え方も認識したうえで商品を選ぶという考え方が必要  
 森林伐採やオゾン層破壊などといった問題を知り、環境に負担の少ない商品を選択していくという視点が必要 など

- 3 教材①-3の<sup>参考</sup>を参照し、持続可能な消費行動には、フェアトレード以外でも被災地支援や省エネなどの活動があり、消費者市民として自分たちにも日常生活の中で無理せずに行うことができるということを理解させる。

解答例 値段だけでなく生産地や素材なども考えて購入する、地元でとれた農産物やエコ農産物を購入する、商品を買うとき必要なものを必要なだけ購入する、被災地の農産物やグッズなどを積極的に購入する、福祉団体や被災地、ユニセフなどに寄付する、ベルマークを集め、小学校などに贈る、フェアトレード商品やグリーンコンシューマーなどについて周囲の人にアピールし、輪を広げる、買うときや捨てるときに3R（リユース・リデュース・リサイクル）を考える、電気をつけっぱなしにしない、食品ロスを増やさない など